

之謂之、皇子可出來給、サテ立太子、次ニ至天子給歟、入道大令感悅給之間、有御懷妊、令奉產、後朱雀院天皇也、此事秘事也、退席之後、匡衡私令勸件字、天令傳家云々、

〔枕草子〕うへにさふらふ御ねこは、かうぶり給はりて、命婦のおもと、ていとおかしければ、か
しづかせ給ふが、はしに出たるを、めのとのむまの命婦あなまसानやいり給へとよぶに、きか
日のさしあたりたるに、うちねぶりてゐたるを、おどすとて、おきなまる名。犬いづら、命婦のおも
とくへといふに、まことかとして、まれものはしりか、りたれば、をびえまどひて、みすのうちにい
りぬ、あさがれいのまにうへ條。一はおはします、御らんじて、いみじうをどろかせ給ふ、ねこは御
ふところにいれさせ給ひて、おのこともめせば、藏人たゞたかまいりたるに、此おきなまろうち
てうじて、いぬ島につかはせ、たゞいまとおほせらるれば、あつまりてかりさはぐ、むまの命婦も
さいなみて、めのかへてん、いとうしろべたしとおほせらるれば、かしこまりて御前にも出ず、
いぬばかり出て、たきぐちなどしてをひつかはしつ、あはれいみじくゆるぎありきつるものを、
三月三日に、頭辨柳のかづらをせさせ、も、の花かざしにさ、せ、さくらこしにさ、せなどして
ありかせ給ひしおり、か、るめ見んとは、おもひかけんやとあわれがる、おももの、おりはかなら
ずむかひさぶらふに、さうく、まぐこそあれなどいひて、三四日になりぬ、ひるつかた、犬のいみ
じくなくこゑのすれば、なにぞの犬のかくひさしくなくにかあらんときくに、よろづの犬ども
はしりさはぎとぶらひにゆき、みかはやう、どなるものはしりきて、あないみじ、犬を藏人二人し
てうち給ひ、まぬべし、ながさせ給ひけるが、かへりまいりたるとて、てうじ給ふといふ、心うのこ
とや、おきなまろなり、たゞたかさねふसानうつといへば、せいしにやるほどに、からうじてな
きやみぬ、まにければ、門のほかにひきすてつといへば、あはれがりなどする、夕つかた、いみじげ
にはれ、あさましげなる犬のわびしげなるが、わな、きありければ、あはれまろか、か、るいぬやは、